

地域おこし協力隊とは、総務省が平成21年度から取り組んでいる制度で、都市部の意欲ある人材が地方へ移住(最長3年)し、地域力の維持・強化を目的とした支援活動を行うものです。

素敵な出会いとともに、 笠間で目指す農村暮らし



たかやま けん 高山 健 隊員 28歳 千葉県柏市から移住

こんにちは。地域おこし協力隊の高山です。私が笠間市に移住してからの1年間、沢山の素敵な出会いに支えられ活動してきました。今回は、この1年間の笠間での素敵な出会いについて報告します。

①栗の栽培や有機農業に取り組み農家の皆さん

農作業に参加したり、お話を伺ったりする中で、親身になってさまざまなことを教えていただきました。時には、農機具をお借りしたり、コミュニティ農園での作業を手伝っていただくこともありました。このような支えもあり私自身成長でき、やりたいことを次々と実現することができました。お世話になっている農家の皆さんには大変感謝しています。ご協力いただいた皆さんに少しでも恩返しができるよう、農業での自立を目指し、これからも実践と学びに努めます。

②相談を受けた新規就農希望者の皆さん

この1年間で、市外、県外から笠間に移住し、新たに農業を始めたいという方の相談を受けてきました。その多くの方が私と同じように、自然あふれる笠間で自給自足の農村暮らしを目指していて、共通した考えを持つ方々との親交を深めることができました。今後もここでのご縁を大切に、農村暮らしを考えている方々の相談に乗っていきたくと考えています。

③コミュニティ農園のイベント参加者の皆さん

私がお手伝いしているコミュニティ農園「友部 commons 農園」では、昨年7月に整備をはじめ、大豆播種(7月)、枝豆収穫&火起こし体験(10月)、大豆収穫&脱穀体験(12月)、唐箕体験(2月)と多くのイベントを開催しました。地元の子どもたちのほか、市外や県外の方など、いろいろな方にご参加いただきました。イベント参加がきっかけで、共に農園を作る仲間も増えました。今年は農園の規模を拡大し、有機での多品種栽培に挑戦します。今後多くの方に農園の事業に関わっていただきながら、農村暮らしに興味を持つ仲間を増やしたいと思っています。



栗の剪定作業にチャレンジ



有機農業の師匠である浦井義郎さんと一緒に取り組んだハウスづくり



茨城大学農学部学生の農業研修を浦井さんとコーディネート



「友部 commons 農園」で開催された「大豆収穫&脱穀体験」にご参加いただいた皆さん

このような素敵な出会いを大切に、私自身が笠間に定住し、農村暮らしを目指すとともに、移住して就農を希望する方のチャレンジをサポートしていきたいと考えています。



フェイスブックもご覧ください

問 企業誘致・移住推進課 (内線592)